「Bhutan の Covid-19 禍事情　2021.2～2021.5」

2021 年 5 月 23 日　by「cheer up Bhutan」

ブータンは、2 回目の全国ロックダウン（2020 年 12 月 20 日～）が 2021 年 1 月末で解除された後、新たな感染者や隔離者数は減少し、ワクチン接種もインドの支援供与によって対象者の約 9 割が 1 回目の接種を終えた。しかし、インドの感染激増の余波で 4 月中旬以降、再び増加に転じ、南部国境地域ではロックダウンが再発出され、インド人出稼ぎ労働者の入国は禁止、クラスター防止のための大量スクリーニングが行われている。ワクチンの 2 回目接種期限が今月末に迫るなか、必要量を確保できるのか、供与元・インドの動向が注目されている。

この間、国王は南部国境地域・東部への視察を繰り返し、首相共々、国民へのメッセージを発信し続けている。乏しい医療体制のもと、国家的ボランティア・Desuups（デスップ）の献身的な活動も見逃せない。首都ティンプーなどでは LD 解除後も営業時間制限や 3 密回避策が継続中だが、〝不心得者〟はブータンも例外ではなく、逮捕者も出ている。さらに、国際定期旅客航空便の停止（帰国ブータン人のための特別機は除く）は 1 年半近くに及び、検疫隔離体制（入国後 3 週間、感染地域から帰還後 1 週間）も緩和されておらず、観光や建設など外国人依存度の高い経済・社会への影響は多大だ。ブータン政府は、以前から懸案でもあった農作物の自給化促進、3K 職場での出稼ぎ労働者依存からの脱却、離職・転職者の研修などを試み始めているが、課題は多い。

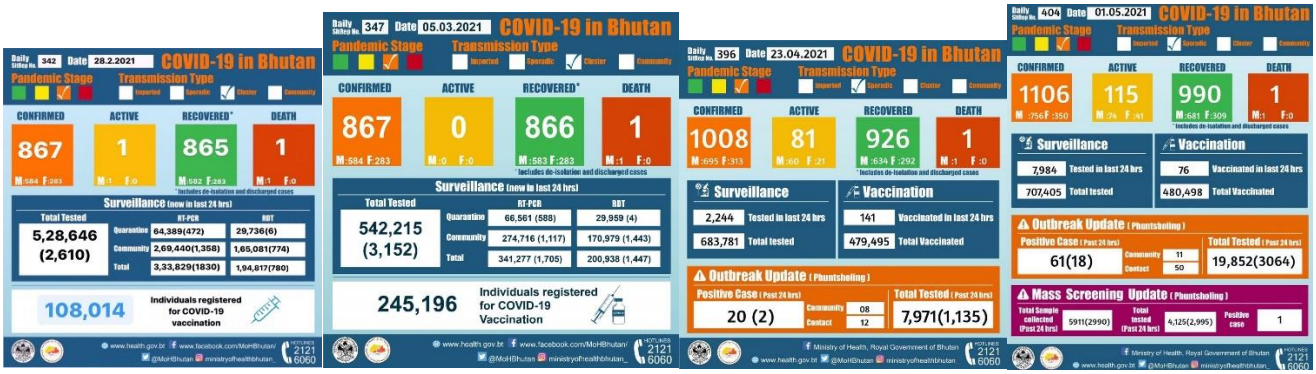
「GNH（国民総幸福量）Gross National Happiness」を掲げ、「世界一幸福な国」を目指すブータンはいま――。

注：政府広報やマスコミ報道の引用は、電子版・英語の原文の自動ソフト翻訳をベースに、概要をかいつまんで紹介しています。翻訳不備や文章齟齬についてはご容赦ください。文中の《》内は筆者による字句等の補足説明です。

Covid-19 感染状況と対応

検疫隔離中の感染者数は、1 月 11 日に最高の 355 人を記録したあと減少を続け、2 月初旬には一桁に、3 月 5 日にはゼロとなった。この時点での累積感染者数は 867 人。しかし、4 月に入ると連日増加し、4 月 21 日には検疫隔離者は初の 3 桁の 102 人に、累積感染者も 23 日に 1008 人に達した。5 月になって加速し、22 日には感染者累計 1392 人、検疫隔離者 205 人。死者は 1 月 8 日の 1 人（重症肝炎患者）にとどまっており、感染者も重症者は確認されていないという。

政府はコミュニティー感染の拡大防止に躍起。ロックダウン解除後も、商店の営業は夜 9 時まで、顧客は定員の半分まで、娯楽施設は休業、25 人以上の集会禁止などを継続中だが、〝自粛慣れ〟〝自粛疲れ〟も表面化。検疫施設に設定されて従業員外出禁止となっているホテルのスタッフが無断外出するケースも判明した。



✧　【Bhutan2.18】感染者計 866（±0）＝死者計 1＋現隔離者 8（－1）＋回復者計 857（＋1　98.96%）検査計 507386(2349)

✧　＜**Enhanced Surveillance**　2.18 保健省＞Covid-19 感染拡大を防ぐ強化監視戦略が実施されている。対象は全フロントライン労働者＝入場ポイント《空港と地上交差点》、 ミニドライポート《国境物資交換拠点》、デポット《物資貯蔵地》、 民間倉庫、 国境巡回、工場、保健施設、外来患者手続きの COVID-19 タスク部隊、学校、市場のベンダーと顧客、バス運転手…。

✧　＜**7 日間の強制検疫は継続**　3.1 クエンセル＞南部の高リスク地域から低リスク地域に旅行する人々の 7 日間強制検疫は解除されない。

✧ 【Bhutan3.5】感染者計 867（±0）＝死者計 1＋現隔離者 0（－1）＋回復者計 866（+1　99.88%）検査計 542215(3152)ワクチン登録 245196

【Bhutan3.27】感染者 871（**+1**　インド人出稼ぎ労働者）死者 1，現隔離者 3（**+1**）、ワクチン接種 85949（副反応 671）

✧ 【Bhutan4.1】感染者 886（+13　帰国ブータン人）、死者 1，現隔離者 16（+13）、ワクチン接種 434837（副反応 7808）

✧ ＜**Bhutan は短い休息の後、Covid-19 の急増を目撃している**　4.10 クエンセル＞

インドは過去 24 時間で 131,968 件の大規模急増を記録、アッサムと西ベンガルの隣国・Bhutan も着実に増加している。相当量の商品が両州から持ち込まれ、違法国境通過は増えている。Covid-19 は輸入された病気で、唯一の原因は輸入ポイントを介してだ。この外部の脅威に加え、人々はすでに「いつも」に戻っている。ワクチン接種キャンペーンの後、ブータン人は自己満足になり、公衆衛生対策に従うのをやめてしまったようにみえる。ティンプーの大通りはいつものように賑やかだ。Druk Trace QR《入場者追跡アプリ》 コードは店やオフィスの壁に掛かっている。店前のミニウォータータンク《手洗い装置》は乾燥し、社会的距離は過去のものになった。老若男女を問わずマスクなしで歩いている。鼻を覆わない人もいる。店主：「手洗い、マスク着用、情報登録を頼むと怒って出てゆく」「自分には免疫がある、と誤った信念を持っている」「人々は長引くパンデミックに疲れてきた」。保健当局者：「自己満足はこれまでの成果すべてを元に戻すことになる」。ブータンは 2 度の Covid-19 流行を経験、2 度目は最初のよりも 10 倍大きかった。1 月 9 日には 1 日で最高の 39 例を記録した。専門家：「人々が注意しなければ、次の流行はさらに大きくなるだろう」。ティンプーの医師：「多くの人々が日常的に陽性反応を示せば保健施設は崩壊する」。国立紹介病院のダカル博士：「ワクチン投与はウイルスに対する 100%保護を保証しない。完全保護までは予防措置に従う必要がある。人口の約 38%がワクチン接種の資格がなく、Covid-19 が再流行すれば深刻な影響を受けるだろう。近隣諸国はこの間違いを犯し、ウイルスは猛威を振るっている。私たちはまだパンデミックから安全ではない」。世界保健機関ブータン代表ルイ・パウロ・デ・ジーザス博士：「誰もが安全になるまでは誰も安全ではない。免疫がいつまで続くのか、病気がどのように進化するのかまだ分からない」。

❋ 【Bhutan4.16】感染者 941（+7、検疫従事者 3+帰国者 4at ブンツォリン、パロ）死者 1、現隔離者 64（+7）ワクチン接種 478219

❋ ＜**インド人出稼ぎ労働者の入国停止**　4.16 クエンセル＞国家 Covid-19 タスクフォース《統合司令組織》は 15 日、外国人労働者の入国を一時停止すると決定した。インドでの Covid-19 症例増加に対する措置。「(この措置は) 国の経済、開発活動、個人レベルにも悪影響を及ぼすと理解している。しかし、国内感染を防ぐのが重要で、他の方法を持っていない。社会が安全ならいつでも仕事を再開できる」と首相。建設請負業者は「この決定は 2020 年 3 月と同じ状況に戻り、ビジネスの損失と建設の停滞を意味する」。

✧ ＜南部国境全域でロックダウン　4.16 保健省＞南部国境県の全市と町は早急な効果を伴う更なる疫学的評価のためにロックダウンされる。国家タスクフォースは 17 日からすべてのハイリスクゾーンでの監視強化とテスト増加を決定した。10 歳の男子学生が 16 日、ブンツォリンの clinic《簡易街角診療所》で抗原陽性、RT-PCR 陽性。母親は抗原陰性、RT-PCR 陽性、父はともに陰性、いずれも隔離。

✧ ＜**Bhutan 南部ロックダウン**　4.16.19：25 日本大使館＞①16 日、ブータン政府は緊急措置としてブータン南部の国境沿いの県の全ての市及

び町をロックダウンする旨発表しました。在留邦人の皆様におかれましては最新情報の入手に努め、十分な感染予防対策を講じてください②日本入国時の手続き（1）有効な検査証明書の提出　ア日本に入国する場合に提出が求められる検査証明書については厚生労働省検疫所において有効と判断する「検体」「検査方法」「検査時間」が指定されているほか、原則として厚生労働省所定書式を用いた証明書を提出することとされています。イ要件を満たさない証明書を持参した場合に空港におけるチェックイン時に搭乗を拒否される等のケースが発生しています。

✧ 【Bhutan4.17】感染者 952（+11、コミュニティー5at プンツォリン+検疫従事者 1at プンツォリン+帰国者 5 at プンツォリン 3+ティンプー 2）死者 1、現隔離者 73（+9）ワクチン接種 478495**（対象者比 86.5%、人口比 63.1%。副反応 0.17%）**

✧ ＜プンツォリン以外は 20 日午後、LD 解除　4.20 首相府＞

✧ **＜検疫施設のホテルスタッフが抜け出し**　4.21 クエンセル＞コルカタから帰国した患者グループがランジュパカのホテルに隔離され、一部患者が陽性を示した。ホテルスタッフが患者から感染した可能性がある。Covid-19 プロトコルでは、検疫施設は封じ込めモードで動作し、全スタッフは施設を離れられない。今回、**施設からの陽性検出後もスタッフは隔離されず**、1 人が施設を複数回離れていた。

❋ **＜「民樹のつぶやき」4 月 21 日　ティンプー市内のホテル従業員の陽性者が確認されました＞**政府は昨日、ティンプーで隔離施設として使用されているホテルの従業員 3 人の感染が確認されたと発表しました。1 人は料理人で、先週末に市内でクリケットの試合に参加したのを含め 3 度も施設から外出していたことも判明しました。隔離施設として使用されているホテルの従業員やそこで任務に就いているデスップは、規約により一切の外出が禁止されています。ティンプーでは昨夕ごろから 3 度目のロックダウンが発令されるのではないかとの噂が一度に広まり、パニック・バイの市民であふれていたそうです。政府は引き続き広範囲でのスクリーニングを実施、市民に外出を控えるよう呼びかけています⇒**＜cheer up　Bhutan　4 月 21 日 23:18＞**「俺だけは大丈夫」「これくらいは問題ない」という＜独りよがり者＞には困ったものですね。長引く Covid-19 禍。息抜きしたい、もう我慢はいや、は誰しも同じ思い。でもね……。小さな「大丈夫」、大きな「迷惑」！そう、日本でも。3 回目の緊急事態宣言が 23 日には発令される段取りです。これで感染急増が抑えられるか？　は疑問ですが、他に打つ手がないのも事実。自衛、自重、自主で防衛しましょう、お互いに。

✧ 【Bhutan4.21】感染者 986（+20＝インド人労働者 7+帰国者 7at プンツォリン・パロ・ティンプー+接触者 6at プンツォリン）死者 1、現隔離者 102（+20）ワクチン接種 479333

✧ **＜在インド大使館員が感染**　4.21BBS＞ニューデリーのブータン大使館員が陽性と判断された。外相によると、いずれも軽度の症状。

❋ **＜インドへ液体酸素を供給**　4.27BBS＞インドは COVID-19 パンデミックの壊滅的第 2 波と戦い続けている。ブータンはインド大使館に対し、サムドゥプ・ジョンカのモタンガ工業団地に設置された新工場からインドに液体酸素を供給する。

❋ 【Bhutan4.26】感染者 1053（+27＝Bhutan20+nonBhutan7＝入国 18at パロ・プンツォリン+接触 5at プンツォリン+フロントライナー4at サブトゥプ・ジョンカ）死者 1、現隔離者 101（+14）ワクチン接種 480181

❋ **＜デリーから大使館員ら 30 人（陽性 26 人）が帰国**　BBS＞外相は昨日、デリーから大使館員ら 30 人のブータン人が帰国したと述べた。患者の状態は安定している。ロテ・ツェリン首相は、自宅から離れたブータン人《海外在住者》にワクチンを届けるための取り決めが行われている、COVID ホットスポット地域の人々にも避難が計画されている、と述べた。

❋ **＜プンツォリンで大量スクリーニング開始**　4.30B＞残留 COVID-19 症例を探すため、保健省は今日から 3 日間の大量検査を開始した。

❋ 【Bhutan3.30】感染者 1074（+8＝Bhutan7+nonBhutan1＝入国 5at パロ・プンツォリン・サブトゥプ・ジョンカ+コミュニティー3at プンツォリン）死者 1、現隔離者 88（+3）ワクチン接種 480422

❋ **＜検疫施設の管理プロトコルを強化**　5.1BBS＞ナショナル COVID-19 タスクフォースは検疫施設管理プロトコル《規則》を見直している。首相は昨日のミート・ザ・プレス・セッションで、検疫センターに追加の警察要員を配備すると言った。4 月 20 日、ティンプーの検疫施設として使用されたホテルの 3 人のスタッフが陽性を示し、うち 1 人がホテルから 3 回こっそり外出していた。3 日前、サムドルゥプ・ジョンカの検疫施設のスタッフ 1 人が陽性を示し、ホテルから抜け出して高等中等学校の子供を訪問した。プンツォリンの検疫施設で働くフロントライナーも 6 人も陽性を示し、このホテルで隔離中の外国人労働者が陽性と分かった。すべての接触者は陰性だったが、これらの出来事で保健省の標準的操作手順と検疫施設管理プロトコルに疑問が出た。首相は「検疫施設を監視するために警察を追加、2 つのレイヤーができた。Desuup 検疫施設マネージャーが施設を管理し、ヒューマンエラーや自己満足の機会を逃さないように施設全体を警察が管理する」。保健相「地域状況を考慮して外国人労働者の入国停止などの措置を講じているが、個人レベルでも責任を負わなければならない」。

✧ 【Bhutan1 日】感染者 1106（+32＝Bhutan28+nonBhutan4＝入国 10atT・S+接触 3atS+接触 18atP+スクリーニング 1atP）死者 1、現隔離者 115（+27）ワクチン接種 480498（対象者比 **86.9%**　人口比 **63.4%**）

注 T：ティンプー、S：サムドルゥプ・ジョンカ、P：プンツォリン、Pa：パロ、Sam:サムチェ、Tr＝タシガン

注対象：552545 人、人口：757522 人

✧ ＜**プロトコル違反の医師に行政罰**　5.6BBS＞保健省は、COVID-19 プロトコルに違反したとして、2 人の医師に行政措置（医師昇進猶予）を決定した。ゲドゥの医療官は、3 月の第 2 週に医療従事者のための COVID-19 ワクチンロールアウト訓練のためにプンツォリンに行き、その後、必須の 1 週間の検疫を受けずにゲドゥに戻った。

✧ ＜サムドルゥプ・ジョンカに LD　5.7BBS＞7 日、 コミュニティーから男性の陽性が確認され、72 時間の LD が課されている。

✧ ＜サムドゥプ・ジョンカの LD 延長　5.10BBS＞72 時間の LD は今日終わるはずだったが、感染者の一次・二次接触の数が増えた。

✧ ＜**JICA が医療支援**　保健省＞保健省と JICA は 10 日、医療支援の議事録に署名した。プロジェクトは 1 年間。 i 腎臓病患者のための血液透析サービス、ii JDWNRH の医療機器、iiiRCDC での監視能力の強化、iv COVID-19 ワクチン接種に対する抗体反応のモニタリング。

✧ ＜**医療用酸素の在庫は十分**　5.10BBS＞ティンプーの国立紹介病院は 1,200 個の酸素ボンベを在庫している。隔離病棟の全患者 21 人は現在、酸素ボンベを必要としない安定した状態で、大規模な流行が発生した場合でも酸素ボンベの供給に問題はない、と医療監督は言った。

✧ 【Bhutan5.11】感染者 1247（+6＝Bhutan6＝接触 3at S +地域 1atP+clinic2atP）、死者 1、現隔離者 145（－6）、ワクチン接種 481768

✧ ＜サムチェを LD　5.12BBS＞Samtse と Tashicholing (Sipsoo)の町はトータルロックダウン下にある。オフィス, 学校, 機関は閉鎖される。

✧ 【Bhutan5.15】感染者 1279（+3＝Bhutan3＝地域 1atP+接触 1Sa+入国 1atT）、死者 1、現隔離者 124（－30）、ワクチン接種 482038

✧ 【Bhutan5.16】感染者 1286（+7＝Bhutan7＝地域 3atP+接触 1P+入国 2atP・T+clinic1atP）、死者 1、現隔離者 130（+6）

✧ ＜**LD 地区で大量検査へ**　5.16BBS＞プンツォリンとサムドゥプ・ジョンカで 17~19 日、集団スクリーニング検査を実施する。

✧ 【Bhutan5.18】感染者 1309（+13＝Bhutan13＝接触 1atS+入国 7atT+地域 5atS）、死者 1、現隔離者 122（+4）

✧ 【Bhutan5.19】感染者 1322（+13＝入国 4atT・P+接触 2atP・S+地域 7atS2+P3+Tr2）、死者 1、現隔離者 135（+13）

✧ ＜南東部高山地域で LD　5.19BBS＞東部・タシガン高山地域ののサクテンとメラは初の陽性 2 人検出により 19 日からロックダウン実施。

✧ ＜**建設セクターの新たな挫折**　5・19 クエンセル＞近隣国の Covid-19 症例の急増に伴い、建設部門はプロジェクトの期限とコスト急騰で新たな課題に直面している。物価急騰に加え、労働力と材料不足は大きな課題。政府はパンデミックの影響を受けるプロジェクトの期限は延期できると通知したが、請負業者は「我々は契約で合意されたコストでプロジェクトを完了する必要がある」。主要な材料の輸入先インド・西ベンガル州は 14 日間のロックダウンに入った。建設事業者は、材料費が最大 60%増加したと言い、パンデミックの前に Nu 300 だった材料費は Nu 500 に、未熟労働者の日給は Nu 450 から Nu 850 に、熟練労働者の賃金は Nu 1,200 に高騰。多くのブータン人建設労働者は農民で農業シーズンが始まると労働不足がより深刻になる。「ブータン労働者は道路工事は非常によくやっているが、建設部門ではインド人労働者がまだ必要」。レンガや岩は地元で入手できるが、鉄鋼製品は輸入頼りだ。

✧ 【Bhutan5.21 日】感染者 1374（+36＝atP：入国 1+atS：接触 21+atT：入国 2+atTr：接触 1+atP：接触 4・入国 4・clinic・フロントライナー）、死者 1、現隔離者 187（+36）

✧ ＜タシガン 3 日間 LD　5.21BBS＞タシガンは明日から 3 日間, 医療チームが接触追跡と症例調査を行うため県全域がロックダウンされる。

✧ 【Bhutan22 日】感染者 1392（+18＝Bhutan13+nonBhutan5=atPa：入国 2+atS：接触 1・地域 4+atP：入国 1・地域 4・接触 6)、死者 1、現隔離者 205（+18）　　*注インド人出稼ぎ労働者は入国停止だが、それ以外の技術・スキル・学識保持者は入国可*

ワクチン接種動向

ワクチン接種は在住外国人も含めて無料で、各県・地域ごとに日程を決め、該当者に通知して実施。日本などのように優先順位を付けずに一斉実施としたのは、小国ならで、公平感を重要視したといえる。遠隔の山岳地帯や接種場所に出て来られない高齢者・障害者には接種チームが対象者宅に出向く方策を採っている。正規の医師・看護師が少ないなか、研修を受けたデスップが被接種者の案内・誘導・整理だけでなく、接種も担当している。接種率は対象人員や人口の設定数のほか、当初「15 歳以上」としていた対象を「18 歳以上」と修正したことで若干差異が出ているが、対象者比で 90%近いのは間違いないようだ。

✧ **＜ワクチン接種の web 登録を呼びかけ**　保健省 2.25＞「ブータンワクチンシステム」で COVID-19 予防接種に登録するよう要望している。15 歳以上《のちに 18 歳以上に修正》の全人口は登録するべきだ。一緒に自分自身とコミュニティーと私たちの国を守ろう。

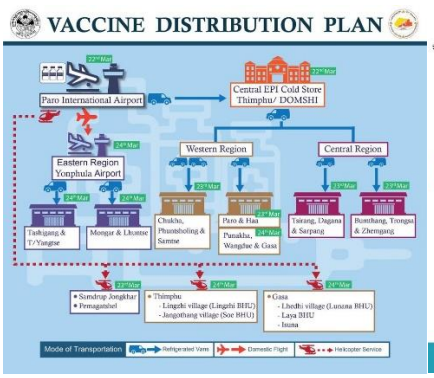
✧ **＜ワクチン接種プラン**　3.12BSS＞タンディ・ドルジ外相は「すべてのコミュニティーに確実に届くようにするマイクロプランが開発された」「登録は義務だがワクチン接種は必須ではない。しかし、旅行や特定の作業ラインでは接種証明書が必要になる」現在、インドから 15 万回のコビシールドを受け取り、今月はさらに 40 万回のコビシールドが到着する見込み、と述べた。

✧ ＜27 日からワクチン接種　3.17 首相府＞ワクチン接種は 3 月 27 日、開始。インドからの 2 回目の提供ワクチン 40 万回分は 22 日に到着。

✧ **＜ワクチン接種開始で首相発表**　3.18 クエンセル＞ロテ・シェリング首相は、3 月 27 日に全国的な Covid-19 ワクチン接種を開始すると発表した。「キャンペーン成功を確実にするために必要な措置」として、接種開始に縁起の良い日を中央修道院に相談。実施前に 3 日間のサンガイ・メンリャ(医学仏)ドルッチェンを行う。仏教の占星術によると、モンキーの年に生まれた 30 歳の女性が最初に接種を受けるだろう。

ワクチン接種の対象となる 536,000 人のうち 480,372 人が登録した。うち妊婦を含む約 7,000 人が病気などで接種を決めかねているとされる。「登録してワクチンを入手することは人々に対する私の個人的な要求」。ワクチンは、Covid-19 ウイルスを得ることを防ぎ、何らかの形で感染した場合でも症状は最小限か存在せず、他人に感染する可能性が減少する。予防接種証明書がなければ、地元や国際の旅行の不便に直面する可能性がある。「驚きの合併症や副作用を観察すれば接種を中断。研究を開始して国民が害を受けないようにする」。

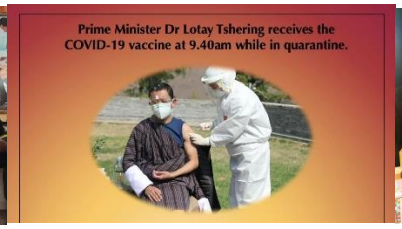
ワクチンの 2 回目の接種は、最初の投与後 8～12 週間の間に計画される。首相は「世界的に傾向を観察し、それに従う」。1 週間の予防接種中にゾン《県》から別のゾンへの移動は制限されるが「真の理由を持つ人は移動が許可されるが、私たちの要求は全く旅行しないこと」「ワクチンを接種しないことを選択した人々は、高リスク地域から低リスク地域に旅行する場合、7 日間の検疫を続けなければならない」「接種後もフェイスマスク着用、物理的な距離の維持、手洗いという保健省の安全プロトコルを遵守し続けるべきだ」。保健省は、COVID-19 ワクチン接種登録のために https://bvs.moh.gov.bt を通じてブータンワクチンシステムを訪問するよう国民に要請。15 歳以上《のちに 18 歳以上に修正》はすべて適格性基準に関係なく登録する必要がある



✧ **＜ワクチン接種の段取りを保健相が発表**　3.23 クエンセル＞接種プログラムに登録した計 495,000 人のうち妊娠中や授乳中の母親を除く 397,640 人が接種の対象。全国で 363 の学校と ECCD を含む 1,001 の予防接種施設を特定した。接種施設以外の学校やオフィス・機関は通常通り運営される。接種の資格があるのに歩けない約 1,200 人は大量接種キャンペーン後にホームベースの接種を利用できる。70 歳以上の約 8,900 人は保健施設で接種。シェドラスの僧侶、大学生らはキャンペーン後に接種。接種後の副作用のために 30 分間強制的に観察される。キャンペーン中はゾン間の移動は制限されるが、接種識別マーク(左手親指の黒い線)を取得すれば旅行はできる。

✧ ＜ワクチン接種おめでたいスタート　3.27 首相府＞午前 9：30、ブータンの全国 COVID-19 予防接種プログラムは開始された。

✧ ＜3.27BBS＞本日、全国で 8 万人以上、ティンプーでは 17,000 人以上が接種を受けた。ティンプーでは、サル年生まれの 30 歳女性ニンダ・デマが午前 9 時 30 分、ルンテンザンパ学校で、最初のコビシールドワクチンを、仏教の占星術に沿って同年生まれの看護師 Tshering Zangmo



によって投与された。ロテ・シェリング首相はティンプーの検疫施設《首相は当時、バングラデッシュでの式典参加から帰国直後で隔離施設に 21 日間滞在中》で投与。首相府によると、軽微な副作用といくつかの有害反応の報告を受けたが、すべてが健康で安定した状態にある。

✧ ＜3.27.19：16＞T：ワクチン接種してきました⇒M：気分はどう？副反応が出ませんように！⇒T：何もないよ⇒N：しばらくは体調に気をつけて過ごしてね。

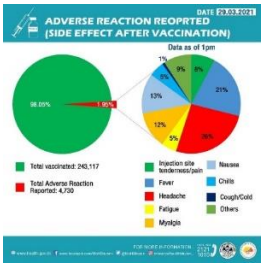
✧ ＜**接種率世界 3 位の秘訣**　4.13 中央日報日本語版＞イスラエルとセーシェル続き世界でワクチン接種率 3 位の国はブータン。ジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王がスピード感のある接種に核心的な役割を果たしていると評価されている。ＡＦＰ通信は 9 日、「接種ペースだけを見るならブータンがイスラエルよりも速い」。英国エコノミストは「ブータンの別名『龍王』ら政治指導者の機敏な対処のおかげ」。

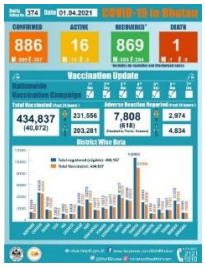
　人口 77 万 9000 人余のブータンは強大国のワクチン外交を活用してワクチンを確保した。中印対立のなか、インドが先に物量確保に成功したアストラゼネカ・ワクチンを周辺国に支援して歓心を買うと、中国も追跡に出た。国王はこの点に着眼してインドからワクチンの無償支援を受けた。全国民を接種して余りある 80 万回分。強大国の間で挟まった小国には、外交で手にした大切な“実”だといえる。国王は迅速な接種を指示した。彼の行く手を占星術師たちが遮った。「星の動きが良くない」「猿年に生まれた者だけを先に接種せよ」。その間、国王は「平和の守護者たち」《デスップ》という名称で活動するオレンジ色のユニホーム姿の「ワクチン接種支援団」を組織した。占星術師のＧＯサインが出ると同時に全国的接種システムを整えるためだ。支援団は全国各地に 1200 か所超の接種ステーションを設置した。国王の右腕は首相ロテ・ツェリン。自身が心臓専門医出身でワクチン接種の案内と実行を引き受けた《保健相や外相も医療従事経験者》。エコノミストは「首相のフェイスブックはほぼワクチン接種の案内文でいっぱいだ」。

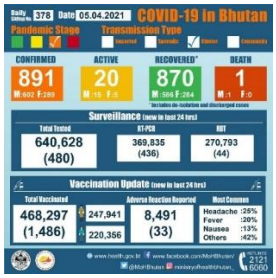
ブータンの龍王は愛妻家としても有名だ。ブータンは一夫多妻を許容しているが、「私は夫人だけを大事に一夫一妻で生きていく」と宣言。夫人は平民出身だがブータン王族と交流のある名家で育った。国王が夫人に初めて会ったのも家族間の遠足。当時 18 歳だった国王は 7 歳の少女ジェツン・ペマに一目ぼれし、「あなたと結婚できる時まで待つ」と話したと語り草になっている。夫人も英国に留学、2011 年結婚式を挙げた。２人の息子がいる。

✧ ＜**バングラデシュ在住者にワクチン接種**　4.16BBS＞バングラデシュの 65 人のブータン人は 16 日、最初の接種を受けた。当地では接種できず、ダッカの大使館の提案をブータン政府が承認、14 日に大使館にワクチンが送られた。

✧ ＜**妊婦・母乳育児者も接種**　4.21BBS＞COVID ワクチン接種は妊婦や母乳育児の母親にとってまだ心配な決断だ。保健省は接種を受けた誰からも深刻な悪影響の報告はない、これまでに 8,000 人以上の母乳育児者と妊婦がコビシールドを受けているという。







✧ **＜2 回目ワクチン接種で外相発言**　4.30BBS＞外相は、インドのカウンターパートと絶えず連絡を取り合っている、と語った。2 回目の投与は 3 月 27 日の全国ワクチン接種プログラムに続いて 5 月末に予定されている。外相は言う。「我々は彼らが私たちを助けると信じている」。Covacs は 108,000 回分のワクチンを与えることに同意した。ファイザー製 5,000 回分もほどなく届くだろう。1 回目接種後に 50,000 回分が残っている。だから、ブータンは約 15 万回分を確保し、残りはインド政府が与えてくれると私は信じている。同時に、他の入手可能な方法も試み、他の国にもリクエストした。まだ確認が取れていないが――。

✧ ＜2 回目投与に関してのブータン政府見解　5.1 クエンセル＞ブータン政府は、ワクチンの 2 日目投与に関し、**1 回目投与の 8～12 週間後**の実施に肯定的だ。1 回目は 3 月 27 日～4 月 4 日、約 467,000 人(適格成人の 80%以上)が受けた。タンディ・ドルジ外相は「インド政府は 2 回目の投与を得る点でブータンへの支援を保証した。ただ、一度に供給できるかどうかが問題。2 回目までまだ 1 ヶ月半ある。他の道も模索している」。COVAX からの供与で内閣は先週、必要な文書を承認・署名した。人口の 20%に対し無料でワクチンを受ける仕組みで、COVAX はアストラゼネカ製 108,000 回とファイザー製約 5,900 回を割り当てた。しかし、世界的な需要増加に伴って COVAX は供与のための最小要件を満たしておらず、ブータン政府は確実な出荷日を受け取っていない。一方、ブータン政府は、ファイザー社に約 20 万回のワクチンを発注した。ファイザー製は 12～17 歳の子供たちのために承認された唯一のワクチン。「我々は全人口の約 70%の免疫を達成するために若年層をカバーする必要がある。インド以外の韓国、タイ、オーストラリアからのアストラゼネカ製の調達も検討している」

✧ **＜ロティ首相がインド首相に電話**　5.11BBS＞ロティ首相は今朝、インド・モディ首相との電話でインドへの祈りと連帯をささげた。

国王や閣僚の言動＆メッセージ

【「感謝の気持ちで　心からの感謝の手紙」 Bhutan 保健大臣デチェン・ワンモ　2021.1.29】

♡ 今週、世界はパンデミックのさらに別の恐ろしいマイルストーンを見ました。COVID-19 の総症例数は 1 億を超え、ほとんどの国はウイルスの伝播を封じ込めるために歯と爪と戦い続けています。世界中の病院と医療従事者は、毎日急増する発生と死亡率に圧倒され続けています。医療従事者やその他の最前線の労働者を含む世界の死者数は 200 万人に達し、世界は暗い雲に覆われているように感じます。数字は時々無情になることがありますが、失われるすべての人生は単なる数字ではなく、家族、親しい友人、または友好的な隣人であることを忘れてはなりません。しかし、他の場所でのパンデミック状況が悪化する中、私たちブータン人は、国王陛下、王妃陛下、第四代国王陛下、そして皇太子陛下からの無条件の愛と思いやりで世話をされることに本当に恵まれています。私と私のチームは、41 日後にそれぞれの家に向けて今夜コマンドセンターを離れるとき、私たちのすべての仕事を細心の注意を払って監督した王の祝福を心に抱きます。今、私たちの心に響く唯一のフレーズは、「菩薩王の愛情深い世話の下でブータン人になることがどれほど祝福されているか」です。

♡ 封鎖は決して簡単ではありません。それは多くの社会的および経済的不便を引き起こし、過去 41 日間も例外ではありませんでした。皆様にとって大変な時でしたので、皆様の並外れたご協力と連帯に感謝申し上げます。社会のすべてのメンバーによる封鎖プロトコル《規則》と COVID-19 予防措置の順守が高かったため、コミュニティーを 2 回効果的にスクリーニングし、残存症例をゼロにすることができました。さらに、法王＝ジェ・ケンポとチョン・ドラシャンが、国民、首相、そして全国の Covid-19 タスクフォース《統合司令部》のメンバーのたゆまぬ奉仕と指導のために、人々の健康と幸福を確保するための果てしない祈りに感謝します。そして最後に、ツァワサム《三宝》への無私の奉仕のための私たちのフロントライナー《医療や物資輸送等のエッセンシャルワーカー》。ありがとうございました！

【王室の模範　3.10 クエンセル**】**

✓ 国王陛下は昨年 3 月以来、13 回の徹底的なツアーと南ブータンへの訪問を行い、Covid-19 の感染を防ぐために国境を保護する何千人ものフロントライナーと会った。この 9 日、南部のゾンカグ《県》の（COVID-19 対策）視察からティンプーに到着、7 日間の施設検疫に入った。ツアーの特徴は、陛下が軍隊、解雇者、公務員、ボランティア、国境沿いの農民や小さな起業家の散在するコミュニティーを訪問、話すのに長い時間を費やすこと。人々にとって、感動的瞬間であり、一生思い出として残る。世界の指導者がセキュリティとデジタル通信を強化した保護された環境の中にいる時、陛下は物理的な近接性という危険に身をさらす。ブータンの回復力と人々の幸福は、軍事的プレゼンスや経済

的安定からではなく、人々が陛下の存在から引き出すインスピレーションの強さから来ている。

✓ 陛下は、人々の声に耳を傾け、彼らの状況を理解し、彼らの努力に感謝し、彼らの個人的な快適さとニーズの世話をするために遠隔地を訪問する。ビデオ通話で対処もできたが直接訪問した。過去 1 年間だけで 53 回、Desuung 研修生に演説、研修生一人一人が陛下の心からの感謝、励まし、指導を直接聞いている。毎月のツアーは、南部訪問のたびに 7 日間の隔離検疫が必要になるが、当該地に住み働くすべての人々の士気を高めるのに役立つ。陛下は「このパンデミックは私たちの時代の大きな挑戦である」。

【東部ツアー　3.27BSS】

✓ 前日から東部ロイヤルツアー中の国王陛下は、モンガル・ゾン《県庁》で最初の投与を見守ったのち、接種センターのモンガル高校へ。「ワクチンは私たちを保護するのに有益だが、私たちは《ワクチン接種対象外の》子供や妊娠・授乳中の女性を含む人口の一部として、安全プロトコルに熱心に従い続ける必要がある」。陛下は接種プログラム期間中、東部に滞在する。

【「Druk Gyalpo 救済キドゥ」の継続支援基金で資金調達　4.22BBS】

✓ 陛下は、4 月から追加で 15 ヶ月間、「ドルックギャルボ救済キドゥ」(DGRK)《生活保護給付金》継続を命じた。 Covid-19 パンデミックで国家回復基金(NRF)の資金調達が課題となるなか、NRF タスクフォースは政府予算からの移籍、国内市場からの借入、複数の国間開発銀行からの融資などの選択肢を提出。これらは困難に対処する手段が疲弊してしまった場合に考えられ対策であり、パンデミックの早期終息を祈りつつも「戦略」を十分に準備せねばならない。陛下は、NRF の補充努力は経済の混乱や政府の開発計画・プロジェクトに影響を及ぼさないように命じた。ロイヤルコマンドは、NRF の次期トランシュは陛下のキドゥ基金とサングチョブ基金から資金調達されることとした。キドゥ基金は究極の社会的セーフティネットを提供するために使われ、Sungchob 基金は国家安全保障基金として設立された。

【救援キドゥに 1 週間で約 2 万人が応募　5.1 クエンセル】

✓ ロテ・ツリング首相がドルク・ギャルポの救援キドゥ(DGRK)をさらに 15 ヶ月間延長するという国王陛下の命令を発表してから 1 週間後、合計 19,341 人が応募、7,374 人の借り手がローン利息支払いサポートに登録した。発表は 4 月 22 日に行われ、4 月 29 日までに月次所得支援の再申請は 17,428 人、新規が 1,913 人。

【国王は南部国境視察　5.9BBS】

✓ 4 月 29 日以来、南部国境地帯に滞在していた陛下は昨日、サムドゥプ・ジョンカに到着した。DeSuups や警護要員のチームによってパトロールされている国境全体を訪問、人々に感謝を伝え、「最善の戦略は最悪の事態に備えること」と今まで以上に大きな態度と関心を持って前進するように訴えた。ジゲル・ウゲン・ウォンチュック王子と保健相が同行した。

【国王の南部視察終了　5.17BBS】

✓ 南部国境地帯でほぼ 1 か月を過ごした国王は今日、 ティンプーに戻り、7 日間の施設検疫に入った。プンツォリン以外にゲレフ，サムツェ，サムドゥプ・ジョンカを訪問。コロナ対策と議定書を見直し、現地の状況を個人的に確認するために施設やリスクの高い所、国境前哨地を視察した。王子ジゲル・ウゲン・ウォンチュック殿下が同行した。

✓ 国王はティンプー到着前、南部の COVID-19 タスクフォース《統合司令組織》と会い、国会開会や重要義務のためティンプーにいる必要があるが「すぐに南部に戻る」と述べた。陛下は、封鎖が長引くか多すぎると、日常生活を混乱させ、人々の幸福に大きな影響を与えるだろうと懸念を表明した。私たちの目標はできるだけ早く安全と正常を回復することでなければならない。陛下は、進行中の封鎖を超えて、予見可能な将来のために十分に準備する必要性を共有した。他の場所で状況が悪化するにつれ、帰国するブータン人をさらに多く受け入れ、

21 日間の検疫を清潔で快適な場所で過ごせるようにする必要がある。検疫施設がいっぱいになると、これは課題になる。陛下は、義務への熱意が揺るぎないままであるにもかかわらず、疲れているフロントライナーの幸福と快適さへの懸念を表明した。陛下は、状況が昨年とは異なるのを考慮し、違反を防ぐためにタスクフォースが断固たる行動を取るように命じた。陛下は、これらの地域が私たちの最初の防衛線であると述べた。ここに住む人々を安全に保ち、パンデミックや封鎖の不安から解放するためにあらゆる努力を払う必要がある。

✓ 陛下は、プンツォリン内のコミュニティー感染を封じ込めることができたことに感謝の意を表明した。これにより陽性と判定された人々に最善のケアを提供できた。陛下は、困難と不快感に直面しているにもかかわらず、フロントライナー、医療従事者、最大の忠誠心と献身でパンデミックと戦うためにそれぞれの役割を果たした封鎖されたすべての人々に、心からの感謝を伝えるようにチームに求めた。

【Important　notice　5.9 首相府**】**

✓ **テ**ィンプーでは公共の場に集まる人が増えている。重要でない集まりを避け、社会的な離脱を維持し、最小出席を観察し、適切な COVID-19 プロトコルを確保するための常設命令にもかかわらず…。世界の状況が悪化し、国内のパンデミックの脅威が高まる中、我々は非常に重要な段階にある。サムドゥプ・ジョンカでロックダウンを実施しているが、他の地区もそうなる可能性がある。大きな懸念を抱いて、国王陛下は 3 週間近く国境沿いの危険度の高い場所に閉じこもっていた。国境を守る陛下の努力に合わせるためには、地域社会の中で責任を持って行動することが私たちの義務になる。危機の時にこの単純な行為を行うことができないのなら、「ブータンの連帯」とは何なのでしょうか――。

✓ この通知は、最高の注意を維持するためのリマインダーとして発行されている。 すべてのビジネスと重要イベントは常に少ない値を確保する必要がある。店舗も顧客の適切な間隔を維持しなければならない。ライブミュージッククラブ、人気バーやハングアウトの場所は法律によって注意深く監視される。ビジネスライセンスの取り消しや警察による拘禁も含まれる。儀式や祝賀は家族に限定されるべきだ。感染リスクを 50%近く低減するフェイスマスクの使用の重要性を改めて述べたい。拡散を防ぐための最も簡単で効果的な方法の一つは石鹸を使用して頻繁に手を洗うこと。何よりも、家にいることを選択してください。

【ブータンは最高のリーダーシップを持っている: WHO　5.15 クエンセル**】**

✓ パンデミックの始まり以来、王陛下は、主に南部の国境地帯で、宮殿の外で、彼の時間のほぼ 80%を過ごしてきた。ロテ・シェリング首相は CNN との最近のインタビューでこれを共有した。王陛下はパンデミックに対して物理的に、国境沿いのすべての最前線の労働者を道徳的に、支援することによって国を守るフィールドにいた――。WHO ブータン代表のルイ・パウロ・デ・ジーザス博士は「Covid-19 リスクが最も高い場所で国民を導き支援している」「南部国境を訪問するたびに 7 日間の検疫などすべてのプロトコルに従うのは、最高品質のリーダーシップ」。3 月以来 415 の感染例の大半は帰国ブータン人だが「それは Covid-19 の影響を受けた国からすべての市民を呼び戻しているから」。ワクチン接種を成人の 90%以上で可能にしたが「政府はブータン人が住むすべての国にワクチンを送った。前例のないこと」。ブータンの「成功」は政府とコミュニティーの両方の集団的努力の結果。「陛下は、最悪のシナリオに備える必要がある、と言っている」。

【首相が演説で「脅威」への自覚と備えを強調　5.22 クエンセル**】**

✓ 世界各国が Covid-19 パンデミックの非常に深刻で致命的な波に立ち向かい続けるにつれて、ブータンも圧力を感じ始めている。Phuentsholing《プンツォリン》、Samtse《サムツェ》、Samdrupjongkhar《サムドゥプ・ジョンカ》の平原から、ウイルスは現在、Trashigang《タシガン》の Merak《メラ》の高地に到達している。昨夜の国民への演説で、ロテ・ツェリン首相は、パンデミックが国内で発生してから 1 年半が経過した後も依然として脅威をもたらしていることを人々に思い出させた。

首相は述べた――。国内の多くの人が Covid-19 の発生を 2 回経験《ロックダウン》した後、最悪の事態は終わったと考えている。予防接種プログラムは多くの人々の希望の光となってきた。「しかし、私たちが今日どこにいるのか見てください」。ブータンも近隣のインドの状況悪化の影響を感じることは避けられない。すべての準備にもかかわらず、ブータンがインドが経験していることを経験しないという保証はない。「南の国境からの脅威は今や東に達しています。注意しないと、隣人と同じ運命をたどるでしょう」。ウイルスが急速に変異、より伝染性が高く、圧倒的になっているためだ。国は四方八方をぐるりと囲まれており、適切な管理措置が講じられず、人々が予防措置に従わなければ、すぐに国は圧倒されるだろう。「今、コントロールできなければ、すぐに一掃されるだろう」。

パンデミックから国を守ったのは陛下の指導と努力である。プンツォリンの Covid-19 病棟として陛下から提供された王立統治戦略研究所（RIGGS、約 65 人の患者収容可能）は限界に達し、懸念した陛下が新しい Druk GREEN Power Corporation（DGPC）を Covid-19 病棟（約 150-200 人しの患者収容可能）として使用するように命じ、隔離病棟への改造作業が始まった。専門家が予測する前でさえ、人々が注意を怠って病気を真剣に受け止めなければ病院や火葬場が不足するだろう、と警告したのは陛下である。「私たちは今、監視員を失望させてはなりません。パンデミックの際に人々と私たちの国を安全に保つために陛下が犠牲にしたことを考えなければなりません」。

（首都での封鎖の可能性についての噂が広まっている中、）封鎖は事前に計画できるものではない。いつでも封鎖が起こる可能性がある。「人々は備える必要がある。そうでないなら、自分の人生に何の備えもしないことになる」。

【小さなヒマラヤ国家ブータンが COVID-19 と効率的に戦う方法　2021．5.11　米ＣＮＮ】

- ✓ わずか 37 人の医師、1200 の予防接種センター、3000 人未満の医療従事者を抱えるブータンは、9 日以内に対象人口の 93%にワクチンを接種した。2021 年 5 月 11 日、ブータンの首相ロテ・シェリング博士は CNN インターナショナルと LIVE した。首相が共有しているように、ブータンはしばしば前代未聞だ。しかし、COVID-19 パンデミックの効率的な取り扱いのおかげで、小さなヒマラヤ王国は国際的なメディアから多くの認識と賞賛を得ている。ジュリア・チャタリーとの CNN のインタビューで、首相は、全国的なワクチン接種キャンペーンであるパンデミックと戦うための継続的な取り組みについて共有し、他の国々にブータンの 2 回目のワクチン接種を支援するよう要請した。
- ✓ **準備と迅速な行動**　ブータンは、中国でコロナウイルスの流行のニュースを受けて、2020 年 2 月から準備を開始した。3 月 5 日、王国はコロナウイルスの最初の輸入症例を検出した。政府は発生を防ぐために迅速に行動した。国は、最初の肯定的なケースが検出された直後に国境を閉鎖した。海外から帰国するすべてのブータン人に対して 21 日間の強制検疫が実施された。食料、宿泊施設、試験などの検疫施設の費用は政府が負担した。肯定的なケースの連絡先トレースアプリを導入した。ロックダウンは被災地で急速に実施された。
- ✓ **全国予防接種推進**　わずか 37 人の医師、1200 の予防接種センター、3000 人未満の医療従事者を抱えるブータンは、9 日以内に対象人口の 93%にワクチンを接種した。 (出典:ユニセフ)小さな国のためのマンモスの事業。しかし、それは慎重に設計された計画だけでなく、人々の団結と信頼を通じて可能になった。ブータンは、全国的なワクチン接種ドライブを実施するのに十分なワクチンを取得するのを待った。占星術師に相談し、キャンペーンの縁起の良い日付を選択した。全国予防接種キャンペーンは 3 月 27 日に始まった。何千もの Desuups(ボランティア市民)がワクチンを提供するために配備され、social ディスタンスィングに関する教育を保証した。医療従事者は世界で最も遠隔地の一つであるルナナを含む遠隔地の村に厳しい気象条件を通ってハイキングした。 (出典:ユニセフ)
- ✓ **第 2 ワクチン接種ドライブの準備** アストラゼネカワクチンは、現在深刻な医療危機に直面している友好的な隣国インドからの贈り物だった。首相は CNN LIVE で、モディ首相がブータンの 2 回目の投与を引き続き支援することに合意したにもかかわらず、王国は他国からの支援も要請していると述べた。ブータンは、ワクチンの 2 回目の用量をサポートするため、世界中のすべての指導者に手を差し伸べている。好ましくはアストラゼネカだが、実績のある承認された予防接種は依然として国にとって良いだろう。

✓ **人民王の思いやり**　COVID-19 パンデミックの成功した取り扱いの多くは、第 5 代国王、ジグメ・ケサール・ナムゲル・ワンチュクのリーダーシップ、指導、思いやりが評価されている。必需品の配布から資金援助まで、国王はブータン人の幸福と安全が最優先事項であることを保証するよう努めている。2021 年 4 月から、Druk Gyalpo のリリーフ・キドゥは、パンデミックの影響を受けた人々に経済的救済を提供するために、さらに 15 ヶ月間延長された。過去 1 年間に 37,000 人以上の人々とその子供たちがキドゥの支援を通じて月収を得ている。40,000 近くのローン口座も利息支払いサポートの恩恵を受けた。思いやりのある王はまた、人々が保護され、世話されることを確実にするため、

農村や国境地域を個人的に訪問している。このような困難な時代に、王の存在と継続的な励ましは間違いなく国の統一力となっている。

✓ 5 月 12 日現在、計 1,241 件の陽性症例を記録し、1,089 人が回復し、1 人が死亡した。

参考サイト

➔ Bhutan 保健省 HP　Ministry of Health, Royal Government of Bhutan

➔ チャンネル大阪自由大学「ブータンからのコロナ報告」　http://kansai.main.jp/　✦このサイト内にコーナーあり

➔ ブータンの日刊紙「Kuensel」（クエンセル）電子版　https://kuenselonline.com/undp-launches-accelerator-lab-in-bhutan/

➔ ブータンの公共放送局「BBS」電子版　http://www.bbs.bt/news/?p

➔ 「ブータン館」HP　http://bhutan.fan-site.net/index.html

➔ 「ブータン事務所長　民樹のつぶやきブログ」　https://www.bussien.com　✦このサイト内にコーナーあり

➔ 「GNH トラベル&サービス 」HP　https://gnhtravel.com

COVID-19 禍 at Bhutan 経緯　2020.3～2021.1

- ✧ 2020.3.6　初の感染者確認と発表。米国人観光客⇒休校、不要不急の外出自粛を指示。旅客定期航空便運航停止。インド国境閉鎖（物資流通は感染防止策を講じて確保）。海外からの帰国者に義務付けの隔離を 2 週間から 3 週間へ延長。
- ✧ 4.10　国王が国民向けメッセージ発布⇒中東など出稼ぎ者向け帰国チャーター便続発。空港・国境での健康チェック・検疫・検査強化⇒マスク着用、手洗い励行、3 密回避など再三アピール⇒国家組織「デスン（平和の守護者）」のボランティア「デスップ」の活動強化、「救援キドゥ（定額給付金）」開始…
- ✧ 8.11 未明　市中感染の判明で全国ロックダウン実施、外出・移動禁止。
- ✧ 9.1～　LD 緩和を順次進め、9.11 から大幅緩和⇒駐留 DANTAK （インド陸軍工兵隊）や IMTRAT（インド軍事訓練チーム）の陽性者が急増、中東出稼ぎ帰国者や外国人出稼ぎ入国者の感染目立つ⇒現国王や前国王が南部国境地域などを複数回視察して見舞い・謁見・激励
- ✧ 12.20　国内を広範囲に移動した女性が陽性と判明、ティンプーに 2 度目のロックダウン、12.23 には全国に拡大⇒地域感染拡大防止を最優先。居住地域外への外出厳禁、買い物時間指定・許可証持参など。違反者逮捕相次ぐ⇒臨時検査所開設、大量集団スクリーニング実施。
- ✧ 2021.1.6　LD はティンプーとパロ以外は段階的緩和。地域感染の恐れは低減との判断。
- ✧ 1.8　初の感染死者。臓器移植が必要な重症肝炎患者。
- ✧ 1.11　現隔離者数 355 人、ピークに。
- ✧ 1.15　感染者累計 837 人（約 26.5%は無症状）、死者 1 人、現隔離者 303 人、回復者 533 人、検査総計 357847 人（全人口の 26.5%）
- ✧ 1.16　ティンプーとパロを除く 18 県で LD 解除。“規制“は継続。
- ✧ 1.17～　パロとティンプーで地域ごとに LD を段階的に緩和。
- ✧ 1.18　感染者累計 850 人、死者 1 人、現隔離者 218 人、回復者計 631 人、検査総計 407541 人（全人口の 50%強）
- ✧ 1.20　インドがワクチン（アストラゼネカ製・インドでライセンス生産「コビシールド」）無償供与第 1 弾 15 万回分到着。
- ✧ 1.20　首相が、3 月下旬から約 53 万人を対象に全国一斉ワクチン接種開始、との見解発表
- ✧ 1.31　この日をもって、最後まで残ったティンプーのロックダウン解除。2 月 1 日から新たな規制に。

2021・1・29　首相ロテイ・チェリング　「2 回目ロックダウンの解除」テレビ会見

陛下の祝福、宗教団体の祈り、最前線の労働者の勤勉、すべてのブータン人の支援の中で、国は封鎖の成功を見ました。40 日以上、全国 28 万回以上の COVID-19 検査が行われた後、私たちはこの病気が制御され、施設だけに限定されていると確信しています。

2020 年 12 月 20 日にティンプーの診療所で症例が最初に確認、封鎖され、病気が全国に広がるのではないかという恐れが生じ、私たちに果てしない問題が投げかけられました。誰もが病気の伝染の連鎖を断ち切るために家にいたので、さまざまなタスクフォースの下で 2 万人以上の最前線の労働者が病気を封じ込めて人々を便利にするために毎日働いた。ティンプーで最もにぎやかな通りが封鎖発表以来、さびれた外観をしていたという事実は、人々が王陛下の下で連帯と団結を重んじたブータン特有の特質でした。

プロセス全体で、ほとんどの国が曲線を減らして平坦化しようとしたのとは対照的に、私たちの使命はコミュニティーで症例数「ゼロ」に到達することでした。封鎖解除の準備のために疫学的状況を確認することにより、首都で全世帯を 2 回テストしたことを誇りに思っています。

しかし、これは長い戦いの半分の勝利でしかありません。今日、監視員を失望させれば、はるかに悲惨な状況に陥る可能性があります。警戒を強化、操作手順を改善、国境に沿った監視強化のための取り組みが行われています。COVID-19 のさらなる検査は、ビジネスコミュニティー、運転手、フロントライナー、学生、医療従事者の間で実施され、診療所は常に病気の初期兆候をスキャンします。追加の移動式診療所は、公共の場所や高速道路沿いの特定の場所に導入されます。とりわけ、国民を保護し、病気の発生防止を可能にする全国的な COVID-19 ワクチン接種プログラムの展開を期待しています。ティンプーの完全なロック解除プロセスは、2 月 1 日から始まります。